



夜

夜

夜



夜

オフィスに

誰も

居ない

要らない



無

有

解決

叢、騷

創、争

想、雑

(字は沢山)

斯くの如

発言容易

意味不明

what

why not

押印

四

日々旅

比べる贅沢

・
・
・
と

・
・
・
に

喝

漏れた思いを掬い

書くとは

苛烈な

対峙

五

創作は逸脱

だが

だから

無音の

言葉と

Le Bar

喧騒のなかで

書く

六

ミツキ

ミツリシ

ミロミロ

ミルコ

名前の氾濫

キヤツシュ・カードで

窓口で

身体は空 — 雲も空

倦怠の整列

七

無い

場

難

外

内

異なる

場

八

Ici demeura
De 1882 a 1827
Jean Capodistrias de Corfu
Ministre de Czar Alexander I
Aux Congres de Vienne et de Paris
Gouverneur élu de la Grece affranchie
Citoyen de Geneve et de Lausanne

耳障りな音

柔軟にベクトルきかせて

ディアスポラは贅沢

九

時間

定義は夢想

看板・ネオン

いくらあっても

震度十

+

口々に

え？

造花ばかり

上にも下にも

動く道

お子様ランチ

あーあ

ただの謔言

そうつと、そうつと

そつと歩いて

もつとそうつと

それでもそつと

カーメーター

右

左

お喋り

あれ

これ

宇宙論

テレカ

コンビニ

マスコミ

パソコン

企みの夜

電波がアレンジ

エト・セトラ

何でも省略

何のため

あーあ

あいつに

会うまで・・・

(昼下がり)

en plein ciel

職人の町

Genzi, Kenzi

(註・溝口健二)

青柳まばらな

川べりの

祇園物語

思い出おぼろに

遠い衝動

子供たち

花火も消えて

はひふくほさえ

十七

難しい

義務

調整

波

また波

生の領域は

曖昧に

始まり

向かう

インク

量って

あー

うー

ん

まるい印象

一人でも

回文 **revisited**

倒置、推敲

夜のカフェ

重なった椅子

ほっとして

本屋の窓に

〈 La revue musicale 〉

(註・音楽及び美学に関する高名な雑誌)

― 芸術保護者に献呈

幸運な教授たち

記憶の地平を捨てて

分類、分析、系統化

詩は

第一印象と

苦難の歴史

二
十
二

だ
け

そ
れ

た
だ

あ
！

二
十
二

いろはにほへば

くりくりカール

言葉舞い散る

文明の墓地

対立

Horace, Horace

(註・ホレス・シルヴァーは黒人ジャズミュージシャン、ホラティウスは古代ローマ詩人)

日常と

異常と

ディストピアの探求

カ
ギ
お
く
れ

空
白

広
場

眼は嫌う

コンビニと

コマーションナル

くつろぎの

コーヒー時

美

微

見方を

変えて

何故

Formula in Restauro

(註・ウフィツィ美術館所蔵「オルフェウス・詩」現

在修復中)

Panel under Restoration

Orfeo (La poesia)

フィレンツェの橋は無関心

自転車から落ちたって

川の流れは

時の最小公約数へ

希望

世俗的

衝突

フュージョン

表現

分裂

言葉の為替

(ただの贖金)

マイナス互換

Borgo De Greci

(註・フィレンツェ市内ギリシア人コミュニティ)

「嗚呼、誰そ画きし」(註・イタリア・ルネッサンスの画家モロの自画像に書かれている古代

ギリシア語)

見事な輝き

Autoritratto -

Antonio Moro (1517-1576)

賞賛こそ道

時が

時の

時を

時よ

書けば三秒

読んで一秒

拍手喝采

文学賞

それに靈感

でも

詩は虚空

目映い光

伝統に学んで

自由

ただ

句読点

ミカ座の

繊細な

傾き

(註・ミカは鉾石)